

## 日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

**目的** 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

- 成果**
1. 美術史研究のためのコンテンツ(年紀資料集成)を作成するため1999(平成11)年以降の展覧会図録及び、美術・博物館所蔵品目録から年紀のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェアFileMakerを使用して入力を行い、新たに311件を追加した。
  2. 本プロジェクトにかかる研究会を外部の研究者を交え、行った。
  3. 2018(平成30)年7月30日開催の、「ワット・ラーチャプラディットの日本製漆扉部材と伏せ彩色螺鈿に関する研究会」での発表をもとに各発表者が書き下ろした報告を主体とした、タイ・バンコク都所在の王室第一級寺院ワット・ラーチャプラディットの日本製漆扉部材に関する報告書の刊行を行った。



年紀資料集成

**論文**・安永拓世：「展覧会評「紀伊田辺の画家 真砂幽泉」展を観て一地域に還元される展覧会のあり方」『美術研究』432 pp.57-69 20.12.21

**発表**・小野真由美：「江戸初期狩野派史料の研究—探幽縮図を中心に—」令和2年度第2回文化財情報資料部研究会 20.7.28

・安永拓世：「片野四郎旧蔵「羅漢図」の近代における一理解」令和2年度第8回文化財情報資料部研究会 21.2.25

・米沢玲：「片野四郎旧蔵の羅漢図について—図様と表現の考察—」令和2年度第8回文化財情報資料部研究会 21.2.25

**刊行物**・『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究—ワット・ラーチャプラディットの漆扉』21.3

**研究組織** ○小林達朗、小野真由美、塩谷純、二神葉子、城野誠治、小林公治、江村知子、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(保存科学研究センター)、津田徹英(客員研究員)